



Vol.17

地域おこし協力隊が

〇〇したつてよ！〜活動だよ！〜



〜おらつらつら果物はまじりたわも〜

農業担当の八木です。先日、冬場の管理作業の一つである剪定を学ぶため、地域の剪定講習会に参加し、冬の作業の大切さについて学ぶことができました。

市内の果物農家さんたちは、1年をとおして甘くておいしいフルーツを作るために努力していますが、目に見えて忙しい夏場だけではなく、外からは比較的のんびりとして見える冬場の仕事こそが、おいしい果物を作るために大切な時期だと痛感しました。

収穫の終わった秋から冬には、来年やその先の収穫に向けて、重い肥料をスコップや背負い機で畑中に運ぶことから始まり、伸びた枝を剪定や消毒、緩んだぶどう棚の修理、各団体での勉強会などが行われます。

春から夏にかけて行う摘果、摘粒、袋かけとは違い、すぐには大きな結果として現れてきませんが、3年先5年先を左右する仕事です。「今年は適当にやっておこう」ということもできてしまう

のかもしれないですが、笛吹市が日本一のぶどうや桃の産地ということ、日々、農家の方たちが手を抜かず真面目にお仕事をされている証なのだと思います。

